

# テロ資金排除へNGワード監視

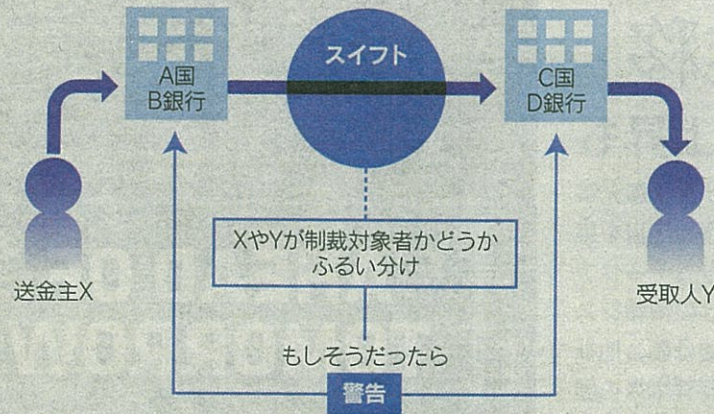
## 国際決済機関スイフト日本法人代表に聞く

国際テロ組織の動きが活発化するなか、その資金源を絶つための取り組みが金融業界に求められている。国際的な金融機関同士の資金決済を担うスイフト（本社ベルギー）は、金融機関がテロ資金の取引をしないようにするためのサービスを相次ぎ投入している。日本法人スイフト・ジャパン（東京・千代田）の武井祐二カントリーマネジャーに詳細を聞いた。

——スイフトとはどのような組織ですか。

「1973年にベルギーで発足した協同組合形式の団体で、世界中の銀行や証券会社などの金融機関が出資している。共通言語のような決済の共通の仕組みを提供している。スイフトを通せば、あらゆる国の金融機関に対して、同じ形式のデータでお金

金融機関がテロ資金と関わらないよう取引をスクリーニング



をやり取りすることができる。効率よく、安全に決済ができるのが売りだ。1日平均で2400万件以上の取引を担っている」

——経済のグローバル化などで国際決済のニーズが高まっています。

「現在では金融機関だけでなく、海外に子会社を持つ企業で

も一部使われている。ユーザーは金融機関と合わせて世界で1万社以上で、200カ国以上をカバーしている。例えば日本では、アジアに進出する企業の資金決済をお手伝いしている。スイフトにつなげば、これまで関係の無かった現地の金融機関との取引もすぐにできる。大きな投資



は必要ないので、中小企業にとっても使い勝手が良い」

——需要が膨らむ一方でテロ資金の排除に向けた対策が急務になってきました。

「スイフトにとってコンプライアンス（法令順守）は非常に大きなテーマで、円滑な決済を維持しつつ、不透明な取引を回避する仕組みを用意している。代表的な『サンクション・スクリーニング』では、金融機関同士の情報ではなく、送り主と受け手についての詳細な素性まで監視し、ふるい分けする。そのために各国・機関の制裁対象者リストを日々更新している。また『イスラム国』など、テロに関連する単語がデータ上に出てきたら警告がでるようになって

いる。これまで一部の取引向けに提供していたこのサービスを、1月からはすべての取引に展開している」

「さらに、これまでと違うパターン取引が出てきたら、通知するサービスも用意した。例えば、ある銀行の取引先がこれまで縁も無かった国の特定の企業への送金を急に増やした際、銀行に注意喚起する」

——円滑な取引に水を差すことにはならないでしょうか。

「無関係のデータも引っかかる可能性があるのは事実だ。例えば日本人の『ヒラノ』という名前は英語で書くと『HIRANO』。中に『IRAN』という文字が入っているので、通常だと（経済制裁の対象となっている）イランと誤認して反応してしまう。こうした間違った警告を取り除く仕組みも導入している。なるべく金融機関や企業の負担を増やさずにテロ資金を排除する取り組みを進めたい」

（秋山文人）